

きづな

地域連携情報誌
No.26

特集 ◆ 摂食嚥下サポートチーム



患者サポートセンター

TEL 075-671-2523 (直通)

FAX 075-671-2654 (直通)

8:30~17:00 日曜日・祝日・祭日・年末年始除く

理念・基本方針

1. 地域の医療機関、福祉、介護施設との連携を深め、地域医療の中核を担っていきます。
2. プライバシーの尊重と心のふれあいを大切にし、利用される皆様患者さんとの良い信頼関係を築きます。
3. 安全で質の高い医療の提供のために日々研鑽し、技術と知識の習得に努めます。
4. 私たちは、病院という生命に直接関わる職場に勤務することを自覚し、生きがいと誇りの人間性豊かな医療人をめざします。



十条武田
リハビリテーション病院



患者サポートセンター



医療法人財団 医道会

十条武田リハビリテーション病院

〒601-8325 京都市南区吉祥院八反田町32番地
TEL 075-671-2351(代表) FAX 075-671-2961



『口から食べる喜び』を
多職種で支援する



Swallow Support Team

摂食嚥下サポートチーム

当院では「安全に口から食事を楽しむこと」を目標に、摂食・嚥下機能の改善に取り組んでいます。今号では相井誠次郎リハビリテーション科副部長に、摂食嚥下サポートチーム（SST）の取り組みについてお話を伺いました。



リハビリテーション科 副部長
相井 誠次郎

言語聴覚士(ST) 係長
堀江 祐希

看護部 師長
久保 静

摂食嚥下サポートチームについて教えてください。

相井 当院では摂食嚥下サポートチーム・SST (Swallow Support Team) を立ち上げました。リハビリテーション科専門医、言語聴覚士、看護師、薬剤師、管理栄養士など専門職が協働して、嚥下機能の改善を図ることを目的としています。

京都では嚥下障害の診療を専門とする施設が少ないと聞いています。

相井 専門とする施設が少ないなか、当院は言語聴覚士が11人体制であるなど、嚥下診療に関わるスタッフ職種が充実しています。また、嚥下内視鏡検査(VE)用のファイバースコープを更新したほか嚥下造影検査(VF)専用のリクライニング型車椅子を導入するな

ど、設備面も充実しています。ハード、ソフトの両面で嚥下診療に特化した体制が整っています。



嚥下造影検査(VF)専用の
リクライニング型車椅子

この面でも地域に貢献できるような体制を築いていかなければと思います。

久保 口から食べることへ向けて患者さんの食事摂取状況や栄養状態の観察を行い、食事介助や口腔ケア・口腔内保清のための指導を行っています。多職種と情報共有し、食べたいという患者さんのお気持ちに寄り添えることが、やりがいとなっており、大きな意義があると感じています。

これからの課題・目標についてお話ください。

相井 今後はSSTの取り組みを通じて、回復期病棟の患者さんだけでなく、一般病棟の患者さんや外来患者さんの嚥下診療の充実化を図る予定です。

地域の先生におかれましては、合併症で嚥下機能低下を認める患者さんの紹介先に戸惑われることもあるかと思います。当院では人員体制・設備ともに充実しておりますので、是非、ご相談ください。



内視鏡用ビデオカメラ

呼吸器内科

ぜん息外来を行っています

当科では、アレルギーに関する咳の治療を専門とし、他に肺炎・間質性肺炎・肺結核・慢性閉塞性肺疾患（肺気腫）・肺がん・睡眠時無呼吸症候群など、呼吸に関わる幅広い疾患に対応しています。

とくに毎週火曜の午前には「ぜん息外来」を行っております。咳がとまらない、痰がからむ、息が苦しい、息がゼーゼー・ヒューヒューする、いびきや日中の眠気がひどい、といった患者さんがおられましたら、是非、ご紹介くださいませ。



担当医 ◆ 南端 朝美（みなみばた あさみ）

診療日 ◆ 毎週火曜日 午前診（9:00～12:00）

【資格・専門医】

日本内科学会認定医・総合内科専門医
日本呼吸器学会呼吸器専門医
日本アレルギー学会アレルギー専門医
日本喘息学会喘息専門医

日本禁煙学会禁煙認定指導医
日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症認定医
肺がん CT 検診認定機構認定医
ICD 制度協議会 Infection Control Doctor

患者サポートセンターから

顔の見える 地域医療連携に努めています

「ときどき入院、ほぼ在宅」など理想の地域包括ケアを構築するには、かかりつけの先生（診療所）方と我々病院の連携が重要です。ご紹介いただける患者さんの入院判定は、医師・看護師・リハビリスタッフが、最適なリハビリテーションの提供、スムーズな退院後の暮らしをどのようにすべきかを検討し、スピーディーに結果をお伝えする努力を続けています。

この橋渡し役となるのが私たち「患者サポートセンター」で、返書を直接お持ちするなど、顔の見える地域医療連携を心掛けています。地域の先生方におかれましては、さらなるご理解・ご協力を賜れるよう、どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。



課長代理
廣瀬 瞬治

次長
三輪 篤志